

講演・シンポジウム I

「人口減少クライシスに向けての大都市圏の都市政策」

[趣旨]

2006年を境にした人口減少も、地方における高齢者の減少これに伴う若年層の東京圏等への流入等、新たな局面を迎えた。日本創成会議の人口減少問題検討分科会(座長・増田寛也元総務相)提言によれば、現在の社会移動のトレンドが継続すると仮定すれば、地方を中心とした自治体の「消滅」と大都市における構造的な少子化・高齢化に直面することが予想される。このような日本社会のトレンドに適切に対応するとともに、そのトレンドを転換させる政策運営が急務となっている。

本シンポジウムは、新たな人口減少クライシスを大都市圏の都市政策にフォーカスする。若年層の人口流入が続く大都市圏で、地域の拠点都市との機能分担を前提としたグローバルで高度な都市・産業機能、子育て支援に留まらないワークライフバランスを確保した若年層の生活支援、高齢者施策をどのように連携させながら進めていくのかといった観点から、大都市圏の未来を考える。

[コーディネーター]

青木宗明(神奈川大学)、池上岳彦(立教大学)

[挨拶]

林文子(横浜市長)

[講演]

柏崎誠(横浜市副市長)

[パネリスト]

石栗伸郎(横須賀市役所逸見行政センター副館長、法政大学大原社会問題研究所嘱託研究員)

鈴木和宏(横浜市財政局長)

中井英雄(大阪経済法科大学)

平嶋彰英(総務省自治税務局長)

宮本みち子(放送大学副学長)